



道連ニュース

2012年7月号 No.73

北海道生活協同組合連合会

〒003-0803 札幌市白石区菊水3条4丁目1-3

全労済北海道会館内

TEL 011-841-8601 FAX 011-841-8605

URL: <http://www.doren.coop>

8/27に I Y C 北海道学習会を企画

「札幌駅ちか歩行空間」ブースで出展・I Y C をアピールしました

～カルチャーナイト10周年メモリアルイベント～

7月14日、カルチャーナイト実行委員会（委員長辻井達一氏）からの要請があり、札幌駅前通地下歩行空間へブース出展しました。記念式典では高橋はるみ知事が第1回からの思いで話しをまじえた祝辞がありました。

ブース開設は各地の実行委員会のほか、「今年は国連が国際協同組合年と定めたことに因んで、道生協連のご後援のもとコープさっぽろ・道森連・JAグループが展示と販売にご協力をくださり、「つながって、輪になって10周年」のイベントテーマを盛り上げて頂いたと、実行委員会からの「お礼」がありました。



「I Y C」に因みカルチャーナイト・イベントに参加

道生協連のブースではタペストリー

パネルでの各種協同組合の紹介・道漁連の「海の料理本や昆布おしぼな」・北海道労金や全労済生協の紹介グッズ・ライフサポートセンターの紹介チラシなど各500部を頒布しました。



森林組合連合会



JAグループ

～I Y C 北海道学習会のお知らせ～

- | | |
|------|---|
| 日 時 | 8月27日(月) 午後2時～3時30分 |
| 会 場 | 札幌市中央区北4条西1丁目 共済ビル8階 |
| 共催団体 | JAグループ・JFグループ・森林連・道生協連など |
| 内 容 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 開会挨拶 飛田 稔章氏 (JA道中央会会長) 2. 講 演 「協同組合の今日的役割と憲章がめざすもの」
講師 栗本 昭氏 協同組合憲章検討副委員長・生協総合研究所理事 3. 閉会挨拶 麻田 信二 (道生協連会長) |

第2回事業提携推進委員会が開催されました

6月28日、全労済北海道会館会議室に於いて、第2回事業提携推進委員会が開催され、今回は生活クラブ生協の池内顧問のオブザーバー参加がありました。

会では、はじめに前回5月31日開催された第1回の委員会確認事項が報告・確認され、引き続いてこの間実施したアンケート結果とヒアリング調査結果が報告され、協議の結果事業提携8項目に加え、次の4テーマで事業提携を推進することが確認されました。

①安心・安全・美味しい食事提供事業の連携、②人材

育成・確保と労働とボランティアの場の創出連携、③仕入窓口一本化でコスト削減の連携、④利用者にとって「信頼・利用しやすい」窓口一本化の連携推進

その後の動きでは、重油や紙おむつの共同購入の動きが始まり、節電ノウハウの共有化、食事提供の取り組みでは原材料調達の共同化や病院や福祉施設で業務委託している配食事業の提携先の見直しなど事業提携推進団体による、着実な前進が始まりました。今後の動きにご期待ください。

コープ
さっぽろ

福島の子ども保養プロジェクト

コープさっぽろでは、福島県の子ども達（小学校3年生～6年生）108名を7月22日より8月21日まで期間、4グループに分けて北海道の大自然を満喫して遊んでもらおうと「北海道へ遊びに行こう！夏休み大自然北海道ツアー」を企画。組合員より募金を集め12,980,104円の善意が寄せられました。1日目はフェリーを利用して苫小牧港へ、2日目はバスで移動し砂川青少年自然の家へ。散策やナイトハイク、キャンプファイヤー、花火など屋外で自然と触れ合い楽しむ2日間。4日目は旭山動物園に移動し、間近で動物を

観て楽しみ、最後はみんなで焼肉パーティーと夏休みの貴重な思い出となる体験ツアーとなりました。子ども達の笑顔がいつまでも続き、1日でも早く自由に外で遊べる福島に戻ることを祈っています。



最終日の焼肉パーティー、大切な思い出の1ページに



北海道電力生協 2012年度通常総代会を開催

～物資供給から当初スタート、共済・保険へと事業拡大へ～



北海道電力生活協同組合の「2012年度通常総代会」を6月14日(木)、東京ドームホテル札幌で開催しました。

今総代会出席者数は総代定数120名中、出席総代116名、委任状出席1名でした。

議案は、「2011年度事業報告、決算報告、監査報告に関する件」、「2011年度剰余金処分に関する件」、「2012年度事業計画および収支予算に関する件」、「役員報酬額に関する件」等、全8議案を提案・審議し、全議案とも承認されました。第8号議案の役員選挙では、理事6名、監事1名の役員交代が承認されました。

また、当生協は「相互扶助」の精神に基づき、組合員の文化的・経済的向上を図ることを基本理念に、平成元年12月に事業を開始し今年で23年目を迎える

こととなりました。この間、物資供給から始まり、共済・保険と事業の拡大を図り、取扱高も順調に推移してきております。今後とも役員一同、基本理念に基づき組合員の生活の一助をなすべく組合員ニーズにあった事業展開と、30年、40年と安定した事業継続に向けて努力していく所存です。



6月14日、総代116名が出席、全議案が承認された通常総代会

TPPを考える市民の会

出版記念トークショー「TPPで私たちの暮らしはどうなるの？」

7月15日、TPPを考える市民の会が自費出版した「北海道の明日のためにTPPと正面から向き合う本」出版記念トークショーが紀伊國屋書店で開催されました。



前濱コープさっぽろ前理事(道連事務局長)が出演し、TPPによる消費者への影響を訴えました(壇上右)

市民の会がこのブックレットを出版するに至った経過が話された後、酪農学園大学の中原准一特任教授からアメリカ側の「輸出、雇用を増やす」という戦略でもあるTPPは、関税だけでなく貿易に障壁となるも

のすべてを取り払う協定であるという説明がありました。メノビレッジ長沼の荒谷さんは遺伝子組み換えの表示がなくなり、消費者の選ぶ権利が奪われることや学校給食にアメリカの企業が参入する可能性があり、(アメリカの給食はほとんどジャンクフード)儲からないとなれば簡単に撤退すること、また地域経済の大切さについても語りました。元コープさっぽろ理事の前濱さんは食料自給率が低下することや今でも少ない雇用が更に減少することなどを話しました。食の自給ネットワークの大熊さんは国民皆保険制度が壊され富裕層しか高度な医療を受けられなくなることや、日本の厳しい農業規制やBSEの基準もゆるめられること、最後にISDS条項の恐ろしさを訴えるとともに、これから市民の会として更に学習の場を作っていくことを述べました。

消費者支援ネット北海道(ホクネット)

講演会「消費者のネット被害とその対策」を開催

6月9日の消費者支援ネット北海道総会後に、北海道大学大学院法学研究科の町村泰貴教授(ホクネット理事)の講演会が開催されました。

インターネットの利便性は私達の生活をとても豊かなものにしてきましたが、消費者トラブルも増えていきます。ネット社会は、相手がどのような人かが分かりにくい仕組みになっているところからトラブルが深刻化しています。サクラサイトは有料でメールを交換するサイトですが、高額なメール交換料を支払っても相手はサクラかもしれません。ペニーオークションなどは高額なポイントを購入してもあと一歩で目的達成できない仕組みになっています。

スマホのアプリにはプライベートな情報や、スマホに登録されている住所録の情報などを勝手に第三者に

送りつける機能を持つものがあります。カレログというアプリは、彼氏がどこにいるか、スマホで誰と連絡しているかすべて彼女に通知してくれるというものです。こういうアプリをそんな危険があると気が付かないでインストールしてしまう例が多発しています。

ネット社会は利便性と引き替えに新しいリスクを消費者に突きつけています。これに法的な対策は不十分です。消費者としては、リスクを認識した上で賢く用心深く使うことが必要です。



安心してネット使用するための心構えを解説する町村教授